

事業名称	姫路市蝶ジャコウアゲハプロジェクト
団体名・代表者	姫路ジャコウアゲハ倶楽部
協働の相手方	学校指導課、姫路駅周辺整備室、ジャコウアゲハが飛び交う町姫路連絡協議会
目的	次代の担い手である子どもたちに理科教育・教材として姫路市教育委員会・姫路市環境政策室と連携して取り組んでいる「生き物に学ぶ生物多様性プロジェクト～ジャコウアゲハを育てよう」の実施校が昨年度より9校増えて49校・123クラス・3,614名の児童が飼育・観察をすることになりました。姫路ジャコウアゲハ倶楽部としても共催事業として姫路市の歴史や文化また自然の素晴らしさを学習して自然環境保護の意識を養うとともに、生命の神秘と生命の尊さをこの体験によって考える機会を提供します。
内容	飼育・観察に取り組む小学校にジャコウアゲハの幼虫の食草ウマノスズクサの苗を届けて校内にジャコウアゲハが生息できる環境を整備し、身近でその生態を学ぶことができるようにして生命の誕生に触れる機会をつくり、生命の尊さを学ぶとともに姫路の文化と歴史を学びながら郷土愛を育む魅力のある姫路のまちづくりを考えていきます。
事業経過	3月2日に開催した「第7回ジャコウアゲハサミット」において、白鷺小中学校の3年生がその飼育・観察の体験発表をしました。今年度は中学の応援があり、先生方が幼虫の食草ウマノスズクサの苗を植える場所をジャコウアゲハに限らずいろいろな蝶が給餌する花を植栽、整備してくださり、新たに子どもたちがウマノスズクサの苗づくりに挑戦しました。
事業の効果	特に今年度のサミットで発表するために、ジャコウアゲハの飼育・観察に取り組んだ白鷺小中学校の3年生はジャコウアゲハに限らず普通のアゲハ蝶も飼育していろいろな蝶が飛び交うバタフライガーデンづくりに取り組み校庭の南側の歩道を散歩される校区の人々に蝶が飛び交う様子を楽しめるようにとの思いで社会実験を試みました。また、蝶が蜜を吸うための色々な花の種類もみんなで調べました。サミットでの発表では27名の生徒が登壇しました。
今後の展望	次年度のサミットでの発表は、谷外小学校の3年生が発表するので、校長先生が今回のサミットに参加され、いろいろと計画をされているのです。私の提案として谷外校区の自治会と連携して公民館の周辺にもジャコウアゲハが飛び交う環境をつくり、各家庭においては成虫が給餌する花を植えて、学校で育った蝶が各家庭の密を求めて訪問する環境を創ることで学校だけでなく、地域の人たちにもジャコウアゲハを知ってもらうことになる。

【実施団体の事業総括・感想等】

今年度は、自己資金の不足により事業計画を縮小した活動になりました。しかし、白鷺小学校の先生や中学部の先生の熱意により、子どもたちがジャコウアゲハに限らずアゲハ蝶など全般の蝶に興味を持ち、その中でジャコウアゲハがお百姓さんにとって害虫でないことを認識し、今までの学校に比べてよりジャコウアゲハが大好きになったようで、今までの活動に比べて中身の濃い飼育や観察ができたことは本当に新しい発見です。そのことが私たちにとって知恵と工夫をすることの大切さを知るきっかけとなったことは今後の活動のための大きな収穫であり、成果になりました。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

【学校指導課】

姫路市蝶ジャコウアゲハプロジェクトで、子どもたちがジャコウアゲハを実際に育て観察することで生き物の命に触れ、命の大切さについて実感することができた。また、ジャコウアゲハについて、本やインターネットで調べたことを発信することで、ふるさとを愛する心が醸成された。

【姫路駅周辺整備室】

姫路駅北駅前広場（キャッスルガーデン）での取り組みについて、ジャコウアゲハが飛び交う環境を創出しているところではあるが、情報発信が十分ではないのか、駅前での活動が認知されていないように感じる。

キャッスルガーデンを小学生の活動フィールドとして活用するなど、駅前での活動の幅が広がり、街のにぎわいに繋がることを期待します。